

*…暗い玄関

築年数が古い家に伺うたびに「なんて、玄関が暗いんだろう」と感じる。玄関は「家の顔」といわれ、広さこそここに置く調度品には気を配られてきた。でも、明るさを注がれることはないままだった。その結果、せつかくきれいに生けられた花や絵も、なんだか目に留まらず、虫が明るさを求めるように、小さくさと居間へ入ってしまうことになる。

本来、玄関は家族や知人を温かく迎え入れる場所。温度と採光の確保はリフォーム時には欠かせない。写真の家も、新築時から不満はやはり「玄関が暗

Let's リフォーム

西田恭子

い！」だった。家族数が減ったときに、その問題は解決した。リフォームの方法は、玄関の上の使わなくなった和室を撤去して、吹き抜けを作ったことだ。子供が独立したり2世帯が1世帯になったりと、家族が縮む時代には2階の床を抜くリフォームが増えつつある。

このケースも、玄関の上を抜くことで2階にあった引き違いのサッシから光が入り込むようになった。同時に、そのサッシの窓際に回廊部分を設け、そこに植



昼でも暗かった「家の顔」は、天井を抜いたら明るく一変。窓際に植栽を置いて花や緑も楽しめるようになった

天井を抜いて吹き抜けを作る

栽を置いた。太陽の日差しを植栽にも当て、見上げて花を楽しむことができる。空間的広がりへの期待や明るさを求めてだけでなく、吹き抜けによって緑も楽しむという付加価値もつけら

れた。2階の床を抜く方法は、玄関部分ばかりとは限らない。居間の場合もあれば、洗面室のような狭い空間でも使われている。居間でこの方法を採用するときは、

空調計画も同時に行う。全館空調が理想的だが、床暖房を設置するだけでも効果は大きい。洗面室の場合は本間に暗い。北側が多いため窓も少なく昼でも照明が必需品だ。狭いところで体の向きを変えたりすることは転倒につながりやすい。バリアフリーの観点からも吹き抜けは効果的だ。

1階の部屋の上はどうなっているのか？ 1階と2階の平面図を重ね合わせて確認してみればすぐにわかる。日当たりのいい2階の光を1階に取り込むための個所が見つかるだろう。わが家にも、随所に「光のシャワー」を作り出す可能性がある。

(三井のリフォーム 住生活研究所所長、1級建築士)